

## ▼リツキサン注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】リツキシマブ（遺伝子組み換え）（U） Rituximab（genetical recombination） 【分類】抗悪性腫瘍剤 抗CD20モノクローナル抗体

【単位】▼100mg・▼500mg/V

【常用量】

■小児期発症特発性ネフローゼ症候群（ステロイド感受性で、ステロイド、免疫抑制剤等では寛解が維持できない患者）：1回375mg/m<sup>2</sup>を1週間間隔で4回点滴静注 [最大1回500mg]

■ANCA関連腎炎：1回量375mg/m<sup>2</sup>を1週間間隔で4回

その他は電子添文参照

【用法】1回/週（生食又は5%ブドウ糖注射液にて10倍に希釈）

【透析患者への投与方法】減量の必要はないと思われる（5）

【その他の報告】腎移植前の抗HLA抗体を低下させることができる（Vieira CA, et al: Transplantation 77: 542-8, 2004）

腎障害を伴った非ホジキンリンパ腫の治療のオプションとして用いられる可能性がある（Tokar M, et al: Leuk Lymphoma 45: 819-20, 2004）

常用量を適用したリンパ腫の症例（Jillella AP, et al: Am J Hematol 2002 PMID: 12410580）

【保存期CKD患者への投与方法】常用量（1）

【その他の報告】eGFR 20mL/min/1.73m<sup>2</sup>未満の血管炎に375mg/m<sup>2</sup>/週1回を4回、もしくは1000mg/2週を2回で治療した成績（Shah S, et al: Am J Nephrol 2015 PMID: 26044574）

高度腎障害を伴うANCA関連血管炎への適用成績（Geetha D, et al: J Nephrol 2016 PMID: 25986390）

【特徴】造血管腫瘍の治療薬として開発されたマウス-ヒトキメラ型抗CD20モノクローナル抗体。ヒトB細胞表面に発現するCD20抗原に結合し、補体依存性細胞傷害作用、抗体依存性細胞介在性細胞傷害作用により、既存の化学療法剤とは異なる作用機序で抗腫瘍効果を示す。

Bリンパ球を枯渇させるため、B細胞の関与する免疫疾患の治療や移植治療にも適用される。

【主な副作用・毒性】発熱、悪寒、そう痒、頭痛、ほてり、血圧上昇、頻脈、多汗、発疹、アナフィラキシー、肺障害、心障害、腫瘍崩壊症候群、SJS、TEN、天疱瘡様症状、苔癬状皮膚炎、小水疱性皮膚炎、汎血球減少、白血球減少、血小板減少、間質性肺炎、心障害、腎障害、肝障害、血圧下降、脳神経症状など

【安全性に関する情報】ANCA関連血管炎の治療において、シクロホスファミドに比べて悪性腫瘍の発現リスクが低く、一般人に比べてもリスクを軽減するかもしれない（van Daalen EE, et al: Ann Rheum Dis 2017 PMID: 27899372）

【代謝】Bリンパ球表面のCD20抗原に結合してBリンパ球を傷害した後、傷害されたBリンパ球とともに網内系細胞により貪食され、貪食した網内系細胞が有するリゾソーム酵素による消化を受け、低分子となり血液中に放出されると推定される。体内に過剰に存在する（CD20抗原と結合していない）場合は、生体内の免疫グロブリンと同様の代謝経路で処理されると推定される（1）

【排泄】代謝を受けた後主として尿中に排泄されると推定（1）【CL】0.0122～0.0437L/hr（1）

【t<sub>1/2</sub>】387.8hr（1）初回60hr、維持174hr（U）

【蛋白結合率】おそらく結合しない（5）

【V<sub>d</sub>】11.16L/man（1）

【MW】144510

【透析性】透析前に比し透析後は血液濃縮により血中濃度が上昇する。また透析液中に検出されないことから透析によって除去されない（Jillella AP, et al: Am J Hematol 71: 219-22, 2002）資料なし（1）

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない（5）

【相互作用】

【主な臨床報告】治療抵抗性ANCA関連腎炎への適用でIVCYと同等[RITUXVAS]（Jones RB, et al: N Engl J Med 2010 PMID: 20647198）

ANCA関連血管炎への適用でIVCYと同等で、再発には優越性がある[RAVE-ITN]（Stone JH, et al: N Engl J Med 2010 PMID: 20647199）

ANCA関連血管炎の寛解維持治療では、6～12か月毎の固定治療とバイオマーカーと症状に応じたオンデマンド治療での再発率に差はない（Charles P, et al: Ann Rheum Dis 2018 PMID: 29695500）

ANCA関連血管炎での治療における再発に関するリスク因子評価（Gialouri CG, et al: Rheumatology (Oxford) 2024 PMID: 39107924）

【備考】維持治療時のSARS-CoV-2ワクチンは、次回投与1か月前に接種

【更新日】20240812

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。